

公表

事業所における自己評価総括表

|                |                       |     |        |              |
|----------------|-----------------------|-----|--------|--------------|
| ○事業所名          | 児童発達支援センターかしのき園（毎日通園） |     |        |              |
| ○保護者評価実施期間     | 令和6年 11月 1日           |     | ～      | 令和6年 11月 30日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)                | 17名 | (回答者数) | 14名          |
| ○従業者評価実施期間     | 令和6年 11月 1日           |     | ～      | 令和6年 11月 30日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)                | 11名 | (回答者数) | 11名          |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年 2月 17日           |     |        |              |

○ 分析結果

|   | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的にやっている取組等                        | さらに充実を図るための取組等                                     |
|---|--------------------------------------------|----------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 1 | 少人数の受け入れのため子どもが落ち着いて過ごすことができる。             | 3クラスの設定でひとクラスの在籍数や特性に応じたクラス配置など年度によって工夫している。 | 縦割り、新入園児のみのクラスなど、その年によってクラス運営の工夫をしていく。             |
| 2 | 職員の配置人数を規定より多く設置しているため個別のサポートができる。         | フリーの職員を配置しており、状況によってすぐにサポートできるようにしている。       | 今後も規程数より多く職員を在籍し、有休等がとれる体制を取りながら個別サポートができるようにしていく。 |
| 3 | 認定こども園が隣接しているため、同年齢児が経験する活動や交流保育を実施している。   | 行事によっては、こども園と一緒にを行う内容も年間を通して取り入れている。         | 今後も個々のペースに応じてこども園と一緒に行事をする機会を作っていく。                |

|   | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等                                            | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                                                                                   |
|---|--------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 正規職員の経験年数が浅い。                              | 働きやすい職場環境・職員間のコミュニケーション不足が課題。また、知識向上への自己意識の低さの改善が必要。         | ・就労内容の軽減や見直しをすることで離職者を減らしていきたい。<br>・職員一人ひとりが携わっている職務の重要さを認識できるようにし、職員間でコミュニケーションや相談、助言などができる環境にしていきたい。 |
| 2 | 親子通園に参加できない場合、園児は家庭で過ごす。（欠席扱いになる）          | 親子通園日はクラスの保護者が揃うため自分だけ保護者がいないと子どもが不安になるので、欠席はやむを得ない対応と考えている。 | 親子通園の大切さを保護者にもっと認識してもらえるように伝えていく。                                                                      |
| 3 | 入園時の減少。                                    | 就労する保護者が増え、療育ではなく子供を預ける場所を保護者が求めているようになっている。                 | 市の保健センターなどへアウトリーチをしていき、幼児期の療育の大切さ、発達理解を保護者が深めていくことを健診などで伝えてもらう。                                        |